

I. 研究内容

「生徒の実態に応じた自立活動の指導体制作り～自立活動シートの活用～」

1. 生徒の実態に合わせた教室の課題

生徒 M・R (ⅡA 課程)、生徒 J・K (Ⅰ 課程) は、C 教室を二つに区切って学級として使用している。それぞれ生徒一人学級であり教育課程も異なるため、生徒の指導や活動について職員間で共有する機会が少ない。

2. 班別研修の実際

担当外の職員や生徒の教科担当職員を含めた班別研修を以下の通り行った。

- 1 回目: 自立活動のアイデアや指導方法の助言
- 2 回目: 現在自立活動で取り組んでいる内容を共有
- 3 回目: 今後の体制づくりについて共有
- 4 回目: 自活シートを通してこれまでの振り返り
- 5 回目: 校内研究報告書まとめ

3. 生徒の実態 (自活シート) や助言を踏まえて取り組んだこと

- (1) 学習面での課題 (生徒 M・R): 周囲に気を取られ集中して物事に取り組むことが難しいため、10 分程度の課題をいくつか組み合わせた。
- (2) 生活面での課題 (生徒 M・R): 日常動作で手先の不器用さが見られるため、ビーズを指でつまむ作業や、ピンセットを使って挟み別の容器に移す作業、ひもを結ぶ練習など手指の巧緻性を高める課題を取り入れた。
- (3) 学校生活での課題 (生徒 J・K): 学校生活で困る場面で、どのように対応して良いかわからないため学校生活で困るシーンについて具体的な場面を想定したシートを作り、対応方法を提示した。

II. 研究成果

1. 研究内容 (1) の成果として、見通しを持ってそれぞれの課題に落ち着いて取り組むことができた。
2. 研究内容 (2) の成果として、歯磨きやコップ洗いなどにも自ら取り組むようになってきている。
3. 研究内容 (3) の成果として、自分に出来る対応方法 (選択肢) を知ることができた。
4. 班別研修を活用し、目標を達成するための指導内容や指導方法について複数の職員と意見交換ができた。

III. 研究課題 (今後の取組)

1. 生徒一人学級のため教室ごとに集まっての話し合いではないので、TT 会 (自活) の時は生徒の教科担当に参加を呼びかけるなど、担任がリードして進行する必要がある。
2. Ⅰ、ⅡA 課程合同で行う予定だったが、時間割上生徒の登校が間に合わず実施できなかった。

3. 各担当が活動に入ることによって生徒の課題を実態、指導について共有する機会が増え、活動内容を広げることができるのではないか。
4. 生徒 M・R(ⅡA 課程)、生徒 J・K(Ⅰ課程)の自活において、自活シートは生徒の実態把握以外にあまり活用する機会がなかった。